

第1章 総 則

第1節 方 針

1 目的

この計画は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号。以下「災対法」という。）第42条の規定により、池田町防災会議が策定する計画であって、町及び防災関係機関がその有する全機能を有効に発揮して、町の地域における震災にかかる災害予防、災害応急対策及び災害復旧を実施することにより、町の地域並びに地域住民の生命、身体及び財産を地震災害から保護することを目的とするとともに、町民一人一人の自覚及び努力を促すことによって被害を最小限に軽減し、もって社会秩序の維持と公共の福祉を図ることを目的とする。

2 性格、構成

この計画は、災対法第42条の規定に基づき作成されている「池田町地域防災計画」の「地震対策編」として、東海地震、東日本大震災を始めとする海溝型地震や、阪神・淡路大震災、平成16年（2004年）新潟県中越地震、平成19年（2007年）新潟県中越沖地震の原因ともなった内陸型地震を対象とし、その防災計画を定めるものである。

この計画は、町及び防災関係機関の防災業務の実施責任を明確にし、かつ、これら関係機関相互の緊密な連絡調整を図るために必要な、基本的大綱を示すものであり、災害発生時に講ずべき対策等を体系的に整理した実施細目（マニュアル）等については、更に関係機関において別途具体的に定めることを予定している。

なお、この計画中、第5章は大規模地震対策特別措置法（昭和53年法律第73号）第6条の規定に基づく地震防災強化計画とし、第6章は南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法（平成14年法律第92号）第5条第2項の規定に基づく推進計画とする。

また、この計画に定められていない事項については、「一般対策編」の例によるものとする。

第2節 用語

一般対策編第1章第2節「用語」を準用する。

第3節 防災に関する組織

一般対策編第1章第3節「防災に関する組織」を準用する。

第4節 町及び防災機関の業務の大綱

一般対策編第1章第4節「町及び防災機関の業務の大綱」を準用する。

第5節 町の断層等の概要

1 池田町の地形・地質

町内には、多くの断層線が存在する。池田山東側に北北東—南南西方向の断層があり、侵食状態は壮年期で三角切面が明瞭に認められ、断層崖下に山麓扇状地が発達している。濃尾平野の地下には深さ2千メートルに達する新生代の地層が横たわり、その最深部は平野の真中でなく、養老・池田山地近くであり、他方、養老・池田山地は古世代の地層から成り、新世代層はほとんど載せていない。

また、本町の平野部を構成する種々の地形面は、旧期扇状地面、新期山麓扇状地面、粕川・揖斐川の形成した新期緩扇状地面などからなり新、旧いずれも堆積作用の結果形成されたものである。旧期扇状地面は開析されて断片的にしか残存していない。平野部の大部分は緩扇状地によって占められており、扇状地面は、多くの河道群からできている。

2 活断層の概要

断層は従来地震の原因ではなく、地震動の結果として地層がずれたのであるという考えであったが、近年、地震断層が発見されて、「最近の地質時代に活動した証拠があり、今後も繰り返し大地震を発生させる可能性がある」と判断される断層」つまり活断層が、地震発生と密接なかわりをもっていることが明らかになった。今日では、地震予知の点から活断層の存在が特に重要視されている。

岐阜県を中心とする中央日本の地域には、多数の活断層が分布していることが最近のプレートテクトニクスの研究によって明らかにされている。

町地域には、町を縦走する池田山断層、西には関ヶ原断層、南西には養老断層が伊勢湾へ向かってのび、さらに北には濃尾地震をおこし国際的に知られた根尾谷断層がのびており、注意を要するところである。

第6節 被害想定

1 被害想定

(1) 被害想定の内容

岐阜県が実施した「平成23～24年年度岐阜県南海トラフの巨大地震等被害想定調査」及び「平成29～30年度内陸直下地震に係る震度分布解析・被害想定調査」の調査結果による。

(2) 想定要件

ア 想定する地震

- (ア) 南海トラフ巨大地震 M9.0
- (イ) 養老-桑名-四日市断層帯地震 M7.7
- (ウ) 揖斐川-武儀川（濃尾）断層帯 M7.7程度
- (エ) 長良川上流断層帯（北側震源） M7.3程度
- (オ) 長良川上流断層帯（南側震源） M7.3程度
- (カ) 屏風山・恵那山及び猿投山断層帯 M7.7程度
- (キ) 跡津川断層地震 M7.8
- (ク) 阿寺断層系地震 M7.9
- (ケ) 阿寺断層帯（北側震源） M7.9程度
- (コ) 高山・大原断層系地震 M7.6
- (サ) 高山・大原断層帯（南側震源） M7.6程度

イ 地震発生時刻

- (ア) 冬の午前5時
- (イ) 冬の午後6時
- (ウ) 夏の昼12時

(3) 各想定地震で震度5強以上の強い揺れに見舞われる人口の割合

- ア 南海トラフ巨大地震 100%
- イ 養老-桑名-四日市断層帯地震 100%
- ウ 揖斐川-武儀川（濃尾）断層帯地震 100%
- エ 長良川上流断層帯地震（北側震源） 100%
- オ 長良川上流断層帯地震（南側震源） 25%
- カ 屏風山・恵那山及び猿投山断層帯地震 0%
- キ 跡津川断層地震 29%
- ク 阿寺断層系地震 26%
- ケ 阿寺・大山断層地震 0%
- コ 高山・大原断層系地震 6%
- サ 高山・大原断層帯地震（南側震源） 0%

(4) 各想定地震別被害想定
池田町被害想定

想定項目		南海トラフ	養老・桑名・四日市断層帯	揖斐川・武儀川(濃尾)断層帯	長良川上流断層帯(北側震源)	長良川上流断層帯(南側震源)	屏風山・恵那山及び猿投山断層帯	跡津川断層	阿寺断層系	阿寺断層地帯(北側震源)	高山・大原断層帯	高山・大原断層帯(南側震源)	
地震規模	震度	最小	5.31	5.91	5.30	4.75	4.41	4.24	4.63	4.50	4.37	4.45	3.93
		最大	5.81	6.37	5.88	5.24	5.06	4.89	5.15	5.05	4.85	5.02	4.51
	震度に対する人口比(%)	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85
		5弱	0	0	0	0	75	100	71	74	100	94	15
		5強	0	0	0	100	25	0	29	26	0	6	0
		6弱	100	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0
		6強	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	PL値(液状化指数)	最小	2.26	0.37	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		最大	30.40	32.31	17.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	PL値に対応する面積比(%)	対象外	38	38	65	100	100	100	100	100	100	100	100
0-5		39	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5-15		0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	
15-		23	23	17	0	0	0	0	0	0	0	0	
建物被害(棟)	揺れ	全壊	47	1,638	363	0	0	0	0	0	0	0	0
		半壊	471	2,652	1,565	111	19	0	61	21	7	15	0
	液状化	全壊	257	236	111	0	0	8	0	0	0	0	0
		半壊	385	352	166	0	0	0	0	0	0	0	0
	急傾斜地	全壊	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	全壊	304	1,874	475	0	0	0	0	0	0	0	0
半壊	856	3,004	1,731	111	19	0	61	21	7	15	0		
火災	午前5時	炎上 出火件数	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		残火災件数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		焼失棟数	0	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	午後12時	炎上 出火件数	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		残火災件数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		焼失棟数	0	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	午後6時	炎上 出火件数	1	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0
		残火災件数	1	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0
		焼失棟数	2	28	6	0	0	0	0	0	0	0	0
人的被害(人)	午前5時	死者数	3	101	22	0	0	0	0	0	0	0	0
		負傷者数	121	976	455	26	4	2	14	5	1	3	0
		重症者数	6	216	48	0	0	0	0	0	0	0	0
		要救出者数	10	380	84	0	0	0	0	0	0	0	0
	午後12時	死者数	1	38	8	0	0	0	0	0	0	0	0
		負傷者数	96	1,001	377	25	6	3	15	6	3	5	0
		重症者数	8	172	44	0	0	0	0	0	0	0	0
		要救出者数	5	169	39	0	0	0	0	0	0	0	0
	午後6時	死者数	2	59	13	0	0	0	0	0	0	0	0
		負傷者数	82	754	313	19	4	2	11	4	2	3	3
		重症者数	5	145	35	0	0	0	0	0	0	0	0
		要救出者数	7	235	53	0	0	0	0	0	0	0	0
避難者数(建物被害及び焼失)		1,141	5,306	2,121	89	15	6	48	17	5	12	0	
帰宅困難者		53											

2 想定結果からの課題

(1) 震度予想

想定される地震の中で最も大きな揺れが予想されるのは、「養老－桑名－四日市断層帯地震」で、全町域で6強が予想される。「南海トラフ巨大地震」及び「揖斐川－武儀川断層帯地震」で、6弱が想定されている。

(2) 避難者数

建物被害による予想避難者数も、「養老－桑名－四日市断層帯地震」が5,306人と最も多く、次が「南海トラフ巨大地震」で1,141人が想定されている。帰宅困難者は、「南海トラフ巨大地震」だけが想定対象になっているが、53人が想定されている。

(3) 建物被害と火災

最も被害の大きな「養老－桑名－四日市断層帯地震」を例にとると、午後6時に地震が発生した場合の死者数59人、重症者754人、建物全壊1,874棟、焼失棟数28棟という結果が出されている。人的被害に比し、全壊建物が多い。この結果から見て、死者や重症者は、建物の倒壊によるものが主であることが分かる。

したがって、建物の耐震化が急務であるとはいえ、さらに、不燃化、消防力の更なる整備、ライフラインの早期復旧体制の整備、自主防災体制の充実、そして何よりも住民一人ひとりの意識の高揚が重要といえる。